

# 湖東地域障害者自立支援協議会

## 各専門部会

## プロジェクト

- ・ 令和 7 年度活動報告
- ・ 令和 8 年度活動計画
- ・ 令和 8 年度予算書

※プロジェクトについては令和 7 年度活動報告と令和 8 年度活動計画を合わせて

記載しております。プロジェクト予算は協議会全体予算書をご参照ください

令和8年度 湖東地域障害者自立支援協議会 <役員名簿>

職名	氏名	所属
会長	守時 康裕	(社福) かすみ会 かいぜ寮 寮長
副会長	野路井 邦充	NPO法人シード 慈円 所長
監事	竹内 英司	湖東健康福祉事務所 次長
監事	坂口 充	(社福) ひかり福祉会 働き・暮らしコト-支援センター
事務局長	吉川 知則	(社福) とよさと ステップアップ21
事務局員	大塚 ひろみ	(社福) とよさと ステップアップ21

<専門部会名簿>

※構成委員は、活動計画書参照

部会名	部会長	副部会長
居宅サービス部会	尾見 慎吾 (ステップアップ21)	
地域移行部会	岩下 友香 (まな)	—
労働部会	棕梨 純子 (働き・教育センター甲良)	高松 光照 (job lead) 森口 拓馬 (おひさま)
児童部会	松尾 智子 (ひなたぼっこ)	—
行動障害部会	守時 康裕 (かいぜ寮)	—
重心部会	吉田 和也 (てんしん)	—
高齢障害者支援部会	廣田 佑一郎 (彦根学園)	—

<専門部会・事務局担当名簿>

部会名	事務局担当者(相談支援事業所等)	事務局担当者(市町)
居宅サービス部会	服部 健太郎 (まな)	北村 弘樹 (愛荘町福祉課)
地域移行部会	國 咲緒 (ステップアップ21) 岩下 友香 (まな)	池田 健太郎 (彦根保健所)
労働部会	森本 義彦(ひかり福祉会) 坂口 充(働き暮らしコト-支援センター) 山田 貴志(IHEART WORK結)	山崎 貴司 (豊郷町保健福祉課)
児童部会	安河内 道子 (ぼぼ相談室)	大江 亮 (甲良町保健福祉課)
行動障害部会	保田 しほり 喜多川かおり (かいぜ寮)	奥居 佑美 (彦根市障害福祉課)
重心部会	廣瀬 由希(てんしん) 議員 瑞穂・宮川 由貴子・田島 明美 (ちゃれんじ)	栗原 真由 (彦根市障害福祉課)
高齢障害者支援部会	石澤 英明 (相談支援センターあすなろ)	大矢 和樹 (多賀町福祉保健課)

# 湖東地域障害者自立支援協議会

## 令和7年度 部会活動報告

### 地域移行部会

#### 活動目標(令和7年度)

- 個別支援会議における事例検討の継続
- 入院中から病院と地域が退院を見越した支援を行うための地域移行に関する研修会の企画や施設見学会の継続実施
- 高齢者支援部会との連携、事例検討の企画
- 病院と地域とが交流できる研修会の企画

#### 取り組んだ事柄

- 圏域推進会議を、4月28日、6月25日、8月25日、10月27日、12月22日、2月16日に実施。
- 個別支援会議を、5月26日、7月28日、9月22日、11月17日、1月26日、3月23日に実施。

#### 【地域移行研修会】

- 目的：地域の福祉サービス提供事業者に、病院で行われる治療や支援の現状を知ってもらうことで、病院の支援者（Dr、Ns、OT、PSW）と地域の支援者の相互理解や連携を深めるために実施。
  - 「入院から退院までの治療・支援の流れを知る～医療と福祉の連携で支える地域移行～」  
日時：6月25日 13時半～15時半 場所：豊郷病院

#### 【施設見学の実施】

- 目的：医療機関に対して地域福祉サービスの現状を知ってもらい、退院時の生活イメージを持ってもらうとともに、支援者間で相互理解を深めるために実施。
  - 10月27日に就労継続B型2か所の見学を実施。

#### 【アンケート実施・報告書作成】

- 目的：精神障害のある方の地域生活支援に関する現状と課題を把握し、今後の地域移行部会における検討資料とするために実施。
  - 回答数：181件<障害福祉(60)/精神科医療(49)/高齢福祉(46)/その他>
  - 結果を報告書にまとめる。

#### 【個別支援会議】

- 目的：退院支援対象者の個別ケースに関する情報交換を実施し、支援方針を検討。
  - 令和6年1月より上がっていた長期入院ケースがR7年10月にGHへ退院。
  - コロナ以前より退院後はGHと就労継続B型の利用を目指し体験を重ねていたケースが、コロナ禍による中断を経て、再び体験を重ね、令和7年7月に退院しGH入居となった。
  - 平成30年に地域移行個別支援計画の対象に挙がっていたケースが、コロナ後施設入

所の対象者となり、短期入所を利用して体験を重ね、令和8年度3月に施設へ退院した。

#### 取り組みによる成果

- ◇ 6月25日に行った研修会には56名の参加者があった。アンケートによると、8割以上の方が「満足」され、9割以上の方が「理解が深まった」と回答された。医師・看護師・OT・SWなど、普段関わることの少ない専門職から日々の支援について直接話を伺えたことは有意義な時間であった。
- ◇ 10月27日に実施した施設見学により、医療機関と地域福祉機関との連携意識が向上し、退院支援に向けた協働体制の強化を図ることができた。
- ◇ アンケート実施では、精神障害のある方の地域生活支援に関する現状と課題を抽出することができ、次年度に向けてさらに検討するうえでの有効な資料となった。
- ◇ 個別支援会議では、長期入院中の方3名（過去の対象者1名含む）が、長い期間の支援を経て、退院することができた。

#### 令和8年度以降の方向性

- ・医療と福祉の連携不足に対する更なる強化（高齢分野・圏域外・未受診など）
- ・支援観の共有を目的とした分野横断の場づくり（実際の退院事例をもとに振り返り事例検討会でそれぞれの立場のそれぞれの思いを振り返り共有する）
- ・不足していると思われる地域生活基盤（住まい・就労・居場所等）の整理と共有
- ・精神障害理解の促進と地域全体の土壌づくり（心のサポーター養成講座の実施）

湖東地域障害者自立支援協議会 地域移行部会  
令和8年度部会活動計画

1. 目的

- 偶数月：医療従事者が地域の社会資源を見学し、退院後の支援体制を理解する機会を提供する。
  - 圏域推進会議で、精神科病院の入院から退院までの治療・支援の流れを学ぶ研修を実施。
  - 退院後の生活を支える地域資源を見学し、福祉サービスの実態を理解する機会を作る。
- 奇数月：精神科病院に入院されている方の地域移行に関する個別支援会議を実施し、退院支援の課題を共有・検討する。
- 医療機関と福祉機関の連携を強化し、円滑な地域移行を推進する。

2. 令和7年度活動計画

個別支援会議（奇数月：5月，7月，9月，11月，1月，3月）

※令和7年度から変更なし

- 精神科病院に入院中の地域移行対象者のケース検討
- 退院支援における課題共有および支援方針の調整
- 退院後の地域定着支援の確認
- 医療・福祉・行政の役割整理および連携強化
- 退院困難事例の構造分析
- 退院支援対象者のケース検討
- 支援方針の調整およびアフターケアの見直し

圏域推進会議（偶数月：4月，6月，8月，10月，12月，2月）

令和8年度は、アンケート結果を活用した課題抽出型の運営とする。

① 実態把握（前半）

- 精神障害のある方の地域生活支援に関するアンケート実施  
(対象：医療機関、訪問看護事業所、障害福祉事業所、高齢福祉事業所、行政等)
- 回収および集計
- 所属分野別分析、経験年数別分析等による構造把握

## ② 課題整理（中盤）

- 地域生活支援の機能評価の整理
- 医療と福祉の認識差（ギャップ）の可視化
- 退院支援、住居確保、訪問支援体制等の重点課題抽出

## ③ 対応策検討（後半）

- 抽出課題に対する具体策の協議
- 圏域として取り組むべきアクションの整理
- 次年度に向けた提言資料の作成

## 3. 課題

- 長期入院者の地域移行に向けた実態把握の不足
- 住居確保支援体制の強化
- 医療機関と地域支援機関の情報共有の在り方
- 医療と地域の支援観の差異（安定の捉え方等）
- 高齢精神障害者への対応
- 重症化予防および早期相談体制の強化

## 4. 構成メンバー（部会員）

- 医療機関：豊郷病院（NS、OT、MSW等）
- 福祉機関：相談支援事業所（まな、ステップアップ21）
- 行政機関：彦根市、彦根保健所、精神保健福祉センター
- その他：集まろう会（圏域推進会議のみ）

## 5. 体制

- 部会長：まな 岩下
- 副部会長：未配置
- 事務局：彦根保健所、ステップアップ21、まな

令和8年度 湖東地域障害者自立支援協議会 地域移行部会 予算書

収入の部

(単位:円)

項目	金額	備考
補助金	40,000	
計	40,000	

支出の部

(単位:円)

項目	金額	備考
報償費	10,000	講師謝礼
旅費	10,000	講師交通費
需用費	5,000	資料印刷代 講師水代、事務備品代、
使用料および賃借料	5,000	研修会場費
役務費	10,000	研修会広報チラシデザイン料、振込手数料
計	40,000	

# 湖東地域障害者自立支援協議会

## 令和7年度 部会活動報告

### 労働 部会

活動目標(令和7年度)
障害のある人たちの働く・活動する意欲の向上と、これに関わる願いに応えていくことのできる地域づくりを目指します。障害者の働くこと・暮らすことを支援する事業所間での情報共有と学習・連携が取れる地域づくりを目指します。
取り組んだ事柄
○第1回定例会 日時：7月7日(月)午後1時30分～3時30分 場所：隣保館(豊郷町) 内容：【学習】就労選択支援事業について【共有】福祉サービス事業所の利用者受け入れ状況 学校・施設等の卒後進路状況と在校生進路希望状況 参加者：福祉サービス事業所、教育関係者、相談支援事業所、行政等 75名 ○第2回定例会(事業所見学会) 日時：11月7日(金)午後1時30分～3時30分 見学先；株式会社ティラド(自動車部品製造業)(東近江市五智町) 参加者数 32名(求職障害者 知的6名、精神・発達6名、福祉関係者20名) ○講演会 日時：令和8年3月6日(金)午後1時30分～午後4時 場所：ピバシティ彦根研修室(彦根市竹ヶ鼻町) 内容：【基調講演】『支援する側からされる側へ～高次脳機能障害を経験して～』 講師：高橋信二氏(社会福祉法人ひかり福祉会 前理事長・現相談役)【体験発表①】発表者：働き教育センター甲良(就労移行支援事業所) 訓練生 (&母)『仲間や家族に支えられながら歩んでいる日々について』【体験発表②】発表者：ジョブリード訓練生(就労移行支援事業所) 参加者：福祉サービス事業所、教育関係者、相談支援事業所、行政、企業関係者等 90名 ○湖東地域障害者自立支援協議会相談支援ネットワーク会議での学習会 第1回 日時：10月16日(木)午後1時30分～午後2時30分 場所：隣保館(豊郷町) 相談員他 35名参加 第2回 日時：令和8年1月20日(火)午後1時30分～午後3時 場所：彦根市障害者福祉センター(彦根市平田町) 相談支援専門員他 38名参加 ○就労選択支援会議開催(毎月第3火曜日 16:00～ 於；彦根市福祉センター) 相談支援事業所、ハローワーク、行政、特別支援学校、福祉サービス事業所との連携を今後も図っていく。
取り組みによる成果
○取り組みに多くの人に参加してもらえることが出来た。まだまだ増やしていきたい。
令和7年度以降の方向性
○特別支援学校以外の教育機関とのつながりを持っていく。

# 湖東地域障害者自立支援協議会 労働部会

## 令和8年度部会活動計画

### 1.目的

障害のある人たちの働く・活動する意欲の向上と、これに関わる願いに応じていくことのできる地域づくりを目指します。障害者の働くこと・暮らすことを支援する事業所間での情報共有と学習・連携が取れる地域づくりを目指します。

### 2.令和8年度活動計画

湖東圏域の日中活動を実施する多様な事業所が集まり、学習し、それぞれの活動内容における情報交換をする機会を作っていく。この機会を通じて日頃から、連携して活動ができるつながりを作っていく。また、就労選択支援事業【開始(4月)】を湖東圏域での地域一体の取り組みとするために関係機関(就労系サービス、行政、ハローワーク、教育機関、相談支援専門員等)との連携を積極的に行います。

(活動内容)

- ① 定例会；6月頃開催
- ② 事業所(福祉サービス or 企業など)見学会等開催
- ③ シンポジウム等開催
- ④ 湖東地域就労選択支援事業会議開催(毎月第3火曜日 16:00～)
- ⑤ 共同受注情報の集約と実施等

### 3.課題

部会が主催する会議やイベントに事業所から積極的に参加頂けるよう、日ごろのつながりと連携関係をつくっていく。

#### 【構成メンバー】

圏域内の障害福祉サービス事業所(就労継続支援A型、就労移行、就労継続支援B型、生活介護)、圏域内相談支援事業所、彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町、湖東健康福祉事務所、甲良養護学校、愛知高等養護学校、長浜北星高等養護学校、鳥居本養護学校、県立盲学校、信楽学園、近江学園、県立聾話学校、働き・暮らしコトー支援センター、湖東圏域内普通高等学校、滋賀県社会就労事業振興センター、サロン活動事業所、日中一時支援事業所、ハローワーク彦根 等

### 5.体制

部会長 : 椋梨氏(働き・教育センター甲良)

副部会長: 高松氏(Job lead)、森口拓馬氏(あじさい福祉会)

事務局 : 豊郷町保健福祉課、HEARTWORK 結、社会福祉法人ひかり福祉会  
働き・暮らしコトー支援センター

令和8年度 湖東地域障害者自立支援協議会 労働部会 予算書

収入の部

(単位:円)

項目	金額	備考
補助金	60,000	湖東地域自立支援協議会
計	60,000	

支出の部

(単位:円)

項目	金額	備考
報償費	15,000	研修会講師謝礼(5,000円/30分×(時間)×2回)
旅費	5,000	研修会講師旅費
需用費	5,000	研修会講師水代、用紙代、印刷代
使用料および賃借料	20,000	研修会会場使用料
役務費	15,000	郵送代、手話通訳手数料、振り込み手数料
計	60,000	

# 湖東地域障害者自立支援協議会

## 令和7年度 部会活動報告

### 居宅サービス部会

活動目標(令和7年度)
湖東地域において、障害のある方が安心して在宅生活を続けられるよう支援するために、地域の居宅サービスの提供状況を把握し、課題について検討し必要な対応や提言を行う。
取り組んだ事柄
○年6回（4月6月9月10月12月2月）定例会・事例検討会・研修会 ○ピカジップ事例検討会（6月12月） ○研修会（9月） 「スマホひとつでいつもの仕事がグッと楽に～ベテランヘルパーさんのためのICT活用術～」 ○湖東地域令和7年度版「居宅系サービス社会資源マップ」更新（29事業所情報を集約）
取り組みによる成果
○社会資源マップの更新を行い指定特定相談事業所（計画相談）へ情報提供を行った *居宅サービス事業所の情報（サービス内容や事業所ごとの強み等）を相談支援専門員へ情報提供することで、スムーズなサービス調整・事業所情報の周知等をサポートできた ○研修会の実施 「スマホひとつでいつもの仕事がグッと楽に～ベテランヘルパーさんのためのICT活用術～」 参加者：12事業所23名 ・講義とICTツールの紹介、実演 ・ICTで楽になる未来について。人材不足のなかでICTはサービスの質の向上、事務負担や移動時間の軽減、離職防止等様々な点で我々の助けになる。 ○事例検討会 ・精神障害のある方や高次脳機能障害の方への居宅サービス支援についての事例検討を参加者とともに、気づきを得た。 6月参加者：9名 12月参加者：10名
令和8年度以降の方向性
○令和8年度居宅系サービス社会資源マップ更新 ○「研修会の実施」 ○事例検討会、意見交換会の開催

# 湖東地域障害者自立支援協議会・居宅サービス部会

## 令和8年度（2026年度）活動計画

### 1 目的

湖東地域において、障害のある方が安心して在宅生活を続けられるよう支援するために、地域の居宅サービスの状況を把握するとともに、地域で取り組める課題について検討する。

その課題解決にむけて必要な対応や提言を行う。

### 2 令和8年度活動計画

定例部会：年5回（隔月開催 第3木曜日 午前10：00～11：30）

4月 6月 10月 12月 2月

集合型 Or ZOOMオンライン

- ・湖東地域居宅系サービス事業所「社会資源マップ」の更新（年1回）
- ・「事例検討会」「意見検討会」開催
- ・10月 研修会の開催
- ・居宅介護を行う介護保険事業所に障害分野への参入を促す取り組み
- ・部会参加者を増やすため部会の在り方等を検討

### 3 課題

- ・ヘルパーの高齢化や人材不足
- ・新規支援（長時間支援等）が受けづらい
- ・身体介護等についての知識や技術の向上の機会が少ない
- ・他の事業所との横のつながりや情報交換、制度等学習等できる場がない 等

### 4 構成メンバー

圏域内の居宅サービス事業所

彦根育成会・彦根市身体障害更生会・集まろう会

彦根市障害福祉課・愛荘町福祉課・地域生活支援センターまな

湖東地域障害者自立支援協議会事務局

### 5 体制

部会長	ステップアップ21 尾見氏
副部会長	なし
事務局	愛荘町福祉課担当者 地域生活支援センターまな

令和8年度 湖東地域障害者自立支援協議会 居宅サービス部会 予算書

収入の部

(単位:円)

項目	金額	備考
補助金	40,000	湖東地域障害者自立支援協議会
計	40,000	

支出の部

(単位:円)

項目	金額	備考
報償費	20,000	講師謝礼
旅費	5,000	講師交通費
需用費	15,000	定例会や研修会、社会資源マップ更新関連 用紙代印刷 郵送費
使用料および賃借料		
役務費		
計	40,000	

# 湖東地域障害者自立支援協議会

## 令和7年度 部会活動報告

### 行動障害 部会

活動目標(令和7年度)
○ 行動障害のある人達の課題について、地域と関係機関が連携して実態を把握し、両者の要望や期待の調整をはかり、行動障害のある人達が安心して暮らせる方法を検討する。
取り組んだ事柄
○在学時から卒業後の切れ目ない支援を実現するためのWG:甲良養護学校の全校研に参加させていただき、卒業生もしくは在校生の事例検討を行い、学校と福祉サービス事業所との視点の違いを知り、連携のきっかけとする。 ○児童期の課題を考える WG:児童部会の研修に参加させていただき、行動障害のある成人の事例を通して、児童期の支援に必要な視点を感じていただく。 行動障害部会員、児童部会員とで甲良養護学校の見学を行い、学校ならではの支援の実際を学ぶ。
取り組みによる成果
○在学時からの～WG:今年度は在學生2ケースについて、事前に講師に学校での様子を見ていただき、行動障害やその対応の総論のあと、各ケースのアセスメントや今後についての対応方法を助言いただく。参加者でグループワークを行い、各ケースでの対応にご自身の立場からどのように関わるかという視点で意見交換をした。先生方と福祉関係者とでグループワークすることは難しかったが、在學生という切り口だったため、小学部や中学部の先生方にも活発に意見交換していただけた。 ○児童期の課題 WG:事例を通して、児童部会員に成人期の方に対するイメージをもってもらい、児童期からの切れ目ない支援の大切さを知っていただくきっかけの一つになったかもしれない。学校見学では、文字→写真→現物でのスケジュール提示がしっかりとされており、支援の現場でも使えるようなアイデアを見せていただくことができた。
令和8年度以降の方向性
○在学時からの～WG:甲良養護学校の全校研を研修の場として活用させていただくことは継続しながら、より部会員が計画段階から参画できる仕組みを作りたい。 ○児童期の課題 WG:事例検討を通じた研修会の進め方については、アンケート等を参考にブラッシュアップが必要と思われる。 ○成人期の行動障害のある方の支援について、日中活動を提供されている事業所が話せる場がない(個別に認証ケアマネ等に相談?)。部会がどのような役割を担えるかを検討できないか。

# 湖東地域障害者自立支援協議会 行動障害部会

## 令和8年度部会活動計画

### 1.目的

○行動障害のある人の地域生活における児童期から成人期へのライフステージでの課題を取り上げて、  
関係機関の連携により解決をめざす。

### 2.令和8年度活動計画

○教育と福祉の連携を考えるWG：児童期から高等部卒業後の移行期における「切れ目のない支援」の実現に向け、教育と福祉が合同で事例検討会を行う。教育・福祉両者の視点から本人を中心とした支援のあり方について、具体的な事例を通して相互理解ができることを目的とする。

○児童部会との共同研修会WG：行動障害のある児童への理解を深めるために、児童部会と合同の事例検討会を行う。また、養護学校や事業所等の相互見学を実施し、行動障害のある児者へのそれぞれの対応方法への理解を深める。

### 3.課題

○生活介護事業所そのものの数が増えず、行動障害のある方の日中の受け入れ先が不足している。

○学校卒業後数年経った、青年期の方の課題について共有・検討できる場がない。

○行動障害のある児童、成人の短期入所や急を要するときの預け先がない。

### 4.構成メンバー（部会員）

ステップアップ21（生活介護 居宅介護 発達障害支援認証ケアマネジメント事業）甲良養護学校

彦根学園（地域支援センターたいせい） たんぽぽ セルフひこね 杉の子作業所 れんげはうす

エスピハート ゆかいな家 NOIEHIKONE RASIEL 南彦根 OHANA 滋賀県発達障害者支援センター

※関心のある方のご参加、お待ちしております。

### 5.体制

部会長：かいぜ寮寮長 守時康裕 副部会長： なし

事務局：彦根市 相談支援事業所かいぜ寮

令和8年度 湖東地域障害者自立支援協議会 行動障害部会 予算書

収入の部

(単位:円)

項目	金額	備考
補助金	61000円	
計	61000円	

支出の部

(単位:円)

項目	金額	備考
報償費	55000円	講師謝礼
旅費	5000円	講師交通費
需用費	1000円	資料印刷代 郵送代など
使用料および賃借料		
役務費	0	
計	61000円	

# 湖東地域障害者自立支援協議会

## 令和7年度 部会活動報告

### 児童 部会

<b>活動目標(令和7年度)</b>
○湖東地域における障害児童の「個の育ちを保障する」ために事業所、学校、地域と連携して「安心かつ健全な地域生活」と「個人の意志が尊重される取組」のために活動する。 また、こどもを取り巻く多様な課題について事業所間で情報共有し、解決に向けて取り組む。
<b>取り組んだ事柄</b>
○事例研修会…：10月23日（木）「成人期の支援から学ぶ 児童期にできること」※行動障害部会と合同研修 ○研修会… ・5月16日（月） 虐待防止研修 講師：大津市発達障害者支援センターかほん 小崎太陽氏 ・10月30日（木）甲良養護学校見学 ※行動障害部会と合同研修 ○「子どもの福祉サービス説明会」：11月3日（土・祝）…次年度に小学校入学の保護者を主な対象 「子どもの福祉サービスと手続きについて」：彦根学園廣田佑一郎氏 ・スライドによる「事業所紹介」 ○「個別サポート加算（Ⅰ）」について…1月23日（火）課題解決アクションミーティングにて検討、 ○学校との情報共有について …3月4日（水）協議会事務局会にて「学校と放課後等デイサービスの連携強化プロジェクト（案）」提案
<b>取り組みによる成果</b>
○事例研修会では、行動障害部会より事例提供を受け、学童期の支援についてグループワークをおこなった。 ○虐待防止研修では、「虐待の芽」について講義を受け、管理者・支援員等職種別にワークシートを使ったグループワークをおこない、研修後事業所内での研修に活かしていただいた。 ○「子どもの福祉サービス説明会」については、個別ブースから一斉説明へと変更し、保護者が各事業所について比較検討しやすいよう各事業所のスライド様式も統一した。 ○「個別サポート加算（Ⅰ）」について…対象児の受給者証更新時の流れをフロー作成 →放デイ事業所・相談支援事業所・行政で共有 令和8年度から運用開始 ○学校との情報共有などについて …今後、児童部会より独立して協議会のプロジェクトとして取り組んで行く予定。
<b>令和8年度以降の方向性</b>
○「子どもの福祉サービス説明会」…実施予定。形式についてはR7年度のアンケート結果等を踏まえ検討する。 また、各事業所の情報についても一覧表や事業所情報を更新し、市町担当課などを通して情報提供してもらう。 ○研修会…実施予定。テーマ、日時とも未定。 ○「強度行動障害児支援加算」については引き続き関係者間で協議していく。 ○行動障害部会との合同研修を今年度も継続しておこない、「行動障害」についての理解を深める。

# 湖東地域障害者自立支援協議会 児童部会

## 令和8年度活動計画

### 1.目的

○湖東地域における障害児童の「個の育ちを保障する」ために事業所、学校、地域と連携して「安心かつ健全な地域生活」と「個人の意思が尊重される取組」のために活動する。

また、子どもを取り巻く多様な課題について事業所間で情報共有し、解決に向けて取り組む。

### 2.令和8年度活動計画

○部会…事業所間の情報交換及び各課題に向けた協議検討を行う。

○研修…各事業所の支援の資質の向上のため、事例検討会と講演会を開催する。

事例検討会については、行動障害部会と合同開催する。

○こどもの福祉サービス情報の提供

…主に未就学児の保護者向けに、障害福祉サービスの制度理解や利用までの手続きなどの周知を目的とした説明会を開催する。また、利用事業所選択の際の資料となるよう、各事業所のサービス内容についても情報提供していく。事業所情報については相談支援専門員や行政担当課にも提供する。

### 3.課題

○適切な事業所利用について

・近年、放課後等デイサービスの利用において、保護者が「放課後児童クラブ（学童保育）」と比較するケースや、入学前に希望の事業所利用を確定させるために「前倒し」で児童発達支援を利用されるケースも出てきている。事業所においては、利用児に対して「どのような支援が必要か」を明確にし、個々へ適切な支援を提供していくとともに、保護者に対しても「適切な利用」について考えていただく機会をつくっていくことが必要と思われる。

○市町行政機関との連携について

- ・各サービス事業所の情報を市町担当課に提供し、必要に応じて活用していただく。
- ・「強度行動障害児支援加算」について、圏域での適用を検討していただく。

○他部会との連携について

- ・行動障害部会と共同で、行動障害についての研修をおこない各事業所の日頃の支援にいかす。

### 4.構成メンバー（部会員）

○湖東圏域内の児童発達支援・放課後等デイサービス・日中一時支援各事業所（2026年4月現在38事業所）

・滋賀県立甲良養護学校・湖東地域障害者自立支援協議会・ぼぼ相談室・甲良町保健福祉課

※その他、必要に応じて参加を希望する関係機関、関係事務所

### 5.体制 任期：2026.4.1～2028.3.31（2年間）

部会長：ひなたぼっこ

アドバイザー：こばんはうすさくら彦根教室・なかま〜ず

幹事：うきうきホーム・ちゃいさぼりりん・りんごの木彦根本校

事務局：ぼぼ相談室 甲良町

※役に就く者が事業所の所属を外れた場合は、同一事業所内で後任を決める

令和8年度 湖東地域障害者自立支援協議会 児童部会 予算書

収入の部

(単位：円)

項目	金額	備考
補助金	65,000	湖東地域障害者自立支援協議会より
計	65,000	

支出の部

(単位：円)

項目	金額	備考
報償費	25,000	研修会講師謝礼
旅費	5,000	研修会講師旅費
需用費	25,000	研修会講師水代、 「子どもの福祉サービス説明会」案内ちらし ・当日資料印刷代 部会・コア会議資料印刷代 等
使用料 および賃借料	10,000	研修会等会場使用料
役務費	0	
計	65,000	

# 湖東地域障害者自立支援協議会

## 令和7年度 部会活動報告

### 重症心身障がい児者に関する部会

#### 活動目標(令和7年度)

医療的ケア児者事例検討会では、医療的ケア児者の地域生活課題を共有し、多職種が新たな視点を得ながら解決策を検討する。事例提出者の思いを中心に据え、関係機関のつながりを深め、具体的な支援策につなげる場とする。アドバイザーの助言を得ながら進める。

災害時個別支援PJでは、優先対象者の「いつも」と「もしも」をつなぐ計画を作成し、専門職の協力を得て実際の避難訓練を実施する。訓練の結果を振り返り、計画の改善や地域の災害対応力向上につなげる。

年4回の定例会+事例検討会4回、災害時個別避難訓練を実施する。

#### 取り組んだ事柄

定例会 5月、8月、11月、2月 医ケア事例検討、災害時避難訓練の進捗、報告、振り返り

<医療的ケア事例検討会>

1回目 7月30日 医療ケア児者の家族支援について (25名)

2回目 11月5日 障害受容から地域ネットワーク形成までの課題 (32名)

市町との関わりについて

3回目 12月23日 医療ケア児の学校との関わりについて (22名)

福祉サービスと学校との連携について

4回目 1月27日 事例検討会3回を通して、地域課題の抽出 (22名)

医療ケア児者を支える地域を見える化し、協力者マップの作成とネットワーク作りのグループワーク  
アドバイザーに県立大学看護学部の森本先生に入っていた。

<災害時支援PJ>5月、モデル選定、8月～10月モデルケース宅に3度訪問。①現在の備え・不安の聞き取り②要援護者登録を進める、補助資料(私の避難計画)作成③訓練の手順、荷物、自宅間取り等の確認。10月避難訓練(河瀬小学校)へ趣旨説明と協力依頼

11月17日参加者27名で避難訓練を実施。モデルの方は医療的ケアが無い寝た切りタイプの重症心身障がい者であり、医療面以外の災害時の課題抽出を行った。

12月モデル家族と振り返り、2月部会内で課題共有、河瀬小学校で振り返り

#### 取り組みによる成果

○圏域内の医療的ケアコーディネーターの資格取得相談員+関係施設で事例を通して、生活全体、家族の介護の大変さ、支援者の介入の仕方や課題について意見交換できた。2回目の事例検討では当事者様が自ら経験や思い語られ、生の声を受け止める機会が持てた。4事例を通して改めて資源や情報を“つなぐ”コーディネート機能の重要性を再確認できた。

事例の課題抽出、解決の方向に話がすすみがちで、参加者同士のネットワークを深めることが課題に残った。

○災害時個別支援PJでは1名の方が実際に地域小学校へ避難(訓練)した。モデルケースについては具体的な取り組みによって家族内で話し合う、荷物の準備をするなどの意識が高まった。机上訓練ではない体験ができた。また地域の小学校の協力も得られ、学校としても良い経験になったと言って頂いた。計画作成を通して、地域としての共助の弱体化も明らかになった。それぞれの部署、関係者が災害について懸念しているが、その情報が共有されていないことも明らかになった。

令和8年度以降の方向性

○医療的ケア児者事例検討会を継続する。事例を通して知見を深めるのと同時に、次年度は関係者間のネットワークを深めることについても重点を置く。

○災害時支援PJを継続する。次年度は可能であれば医療的ケアのある方の避難について検討する。関係者間で情報とアイデアを出し合い「私の避難計画」作成過程での連携にも重点を置く。

# 湖東地域障害者自立支援協議会 重症心身障がい児者に関する部会

## 令和8年度部会活動計画

### 1.目的

◇本部会では、湖東地域において、重症心身障がい児者等の方々が住み慣れた地域で、それぞれの個性を認め合い、安心して暮らせる持続可能な社会環境作りを目指す。そのために各福祉事業所や施設・行政・医療・保育・教育機関等（以下、関係機関）が連携し、当事者や地域が抱える暮らしのニーズや課題について、情報共有や実態把握をし、解決を試みる体制作りをしていく。

### 2.令和8年度活動計画

○令和7年度に引き続き、医療的ケア児者事例検討会を実施する。

事例検討を通して医療的ケア児者に関する知見を深め、課題解決に必要な支援視点の気づきや学びを得る。各関係機関のつながりを深め、日常的に相談できるネットワークを築く。

○令和7年度に引き続き、重症心身障がい児者・医療的ケア児者の「いつも」と「もしも」（災害発生以後）をつなげる取り組みをしていく。モデルケースにおける実践を行い、実践から見える課題を抽出する。

具体的には、

A) 災害時個別支援計画（優先して計画を作成する者）の作成

B) その計画に基づいた実際の避難訓練（専門職種の協力を得て）を実施

年4回（5月、8月、11月、2月）に会議をもち、その間に事務局会を開催する。

### 3.構成メンバー（部会員）

せいふう	彦根市発達支援センター	森のお家（ふぁみりい）
滋賀県立甲良養護学校	湖東健康福祉事務所（彦根保健所）	ステップアップ21
滋賀県重症心身障害者・医療的ケア児支援センター	葦の舟	じゅう楽
訪問看護ステーション連絡協議会第5支部	滋賀県医療的ケア児者等家族会びわちゃん丸	

※医療的ケア児者事例検討会には構成メンバー以外からも参加していただけるように検討する。

### 4.体制

部会長： 相談支援事業所てんしん 吉田氏

事務局：彦根市障害福祉課・相談支援事業所ちゃれんじ・相談支援事業所てんしん

令和8年度 湖東地域障害者自立支援協議会 重症心身障がい児者に関する部会 予算書

収入の部

(単位:円)

項目	金額	備考
補助金	65,000	湖東地域障害者自立支援協議会 補助
計	65,000	

支出の部

(単位:円)

項目	金額	備考
報償費	35,000	事例検討会事例提供者謝礼(1事例5000円×2回) アドバイザー(県立大看護学部)1時間×2回 避難訓練モデル者謝礼(5000円)
旅費	10,000	講師旅費等
需用費	15,000	印刷代、部会資料代、事務備品、雑費。
使用料および賃借料	5,000	
役務費	0	
計	65,000	

# 湖東地域障害者自立支援協議会

## 令和7年度 部会活動報告

### 障害高齢者支援部会

<b>活動目標(令和7年度)</b>
<p>○部会の目的を達成するために湖東地域における障害高齢者の方々や家族等や様々な社会資源が抱える課題について、障害福祉分野・介護保険分野双方の行政や各事業所等の関係機関が連携し、情報共有や実態把握を行いながら課題解決に向けての活動に取り組む。</p> <p>具体的には、実態調査を行いながら障害福祉分野や介護保険分野の双方で意見交換会を開催し、障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行に伴う制度設計面も含めた課題を抽出、明確化していく。</p>
<b>取り組んだ事柄</b>
<p>【1】 コア会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 5月12日(月)：出席者 4名、7月25日(金)：出席者 3名</li><li>・ 10月6日(月)：出席者 4名</li></ul> <p>(主な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 部会運営の検討、協議。</li><li>・ 「障害高齢者支援」における課題抽出について 等</li></ul> <p>【2】 定例会の開催(1回)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 6月26日(木)：出席者 13名</li></ul> <p>(主な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「障害福祉分野と介護保険分野との連携」に係る課題について 等</li></ul> <p>【3】 実態調査の実施(12月：回答事業所 55事業所)</p> <p>(主な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 1市4町における障害高齢者の状況。</li><li>・ 介護支援専門員側から見た介護保険移行に向けた状況。</li><li>・ 相談支援専門員側から見た介護保険移行に向けた状況。</li><li>・ 就労継続支援B型、生活介護事業所から見た介護保険移行に向けた状況。</li></ul> <p>【4】 意見交換会の開催(2月19日(木) 10時～12時30分：参加者 34名)</p> <p>※多賀町ふれあいの郷 多目的室</p> <p>(主な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 実態調査結果報告</li><li>・ 話題提供「介護保険は使えるけど…」(相談支援事業所かいぜ寮 喜多川氏)</li><li>・ 意見交換(6グループ)</li><li>・ アンケート</li></ul>

## 取り組みによる成果

○今年度は、昨年度まで培ってきた協議内容をより明確化、普遍化するために実態調査を実施し、その結果を基に「相談支援専門員と介護支援専門員」の意見交換会を開催し障害高齢者支援に関する幅広い意見を得ることができた。その中で、今後の「相談支援専門員と介護支援専門員」の連携に必要な事項として主に以下があがってきた。

- ① 障害福祉サービスと介護保険サービスの内容や支給決定プロセス、相違点を学び合う機会が必要
- ② 双方の計画作成の考え方等、事例検討も含めたケアマネジメントの理解が必要。
- ③ 両サービスを利用または移行する際の利用者負担（収入面も含む）のしくみを学ぶことや立案できる機会が必要。

上記事項については令和8年度以降、細分化しながら計画立案をしていきたい。

## 令和8年度以降の方向性

・令和7年度の活動で整理された事項を基に

- ① 事務局会（年3回程度）、定例会の開催（年3回程度）

・部会における活動内容や啓発範囲（介護専門員事業所や生活介護事業所、就労継続支援B型事業所）を検討し部会活動の周知を図る。

- ② 意見交換会の開催（年2回程度）

・事務局会や定例会で検討された内容を基に様々な事項をテーマにしながら障害福祉サービス分野と介護保険サービス分野との意思疎通を図る。

・部会の円滑な運営を図るために「基幹相談支援センター」を中核的な専門機関として明確に位置づけ部会活動の活性化を図る。

・部会で抽出された事項について基幹相談支援センターから滋賀県障害者自立支援協議会に提唱していただき滋賀県全体の障害高齢者支援に関する現状をご教授いただく。

# 湖東地域障害者自立支援協議会 障害高齢者支援部会

## 令和8年度部会活動計画

### 1.目的

○本部会では、湖東圏域において、障害高齢者の方々が安心して暮らせる社会環境作りを目指す。そのために当事者や地域の社会資源が抱える課題について、障害福祉分野と介護福祉分野双方の行政や支援事業所等の関係機関が連携し、情報共有や実態把握を行い課題解決に向けて取り組む。

### 2.令和8年度活動計画

#### ○部会定例会の開催

- ・部会定例会議開催予定月：6月、11月、2月（年3回開催予定）  
※部会長、部会事務局の求めにより、必要に応じて追加会議を開催する。  
※内容により参加者を拡大して実施する。

#### ○事務局会議の開催

- ・部会事務局会議開催予定月：5月、10月、1月（年3回開催予定）  
※部会定例会に凶る議題の整理や実態調査やデータ収集、整理、又は課題集約等を行う。

#### ○意見交換会の開催

- ・意見交換会開催予定月：7月、12月（年2回開催予定）  
※障害福祉サービス、介護保険サービスについて制度の内容や相違点等を相談支援専門員と介護支援専門員が相互に学び情報収集できる機会を設ける。  
※湖東圏域内の障害福祉分野と介護保険分野の日常的な連携体制の確立を目的に講師については、湖東圏域の中核的機関に依頼していく。

### 3.課題

○昨年度迄、障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行、つまり相談支援専門員から介護支援専門員への移行について制度上の相互理解や連携体制、情報交換に対してアンケート実施、研修開催、共生型サービス事業所等の見学を活動として行ってきました。令和7年度においては、湖東圏域内の相談支援専門員と介護支援専門員との意見交換を行い、制度移行に伴う課題について改めて確認ができました。その課題を整理すると

- ①障害福祉サービスと介護保険サービスの相互理解と湖東圏域内での周知体制。
- ②相談支援専門員と介護支援専門員におけるケアマネジメントの相互理解と具現化
- ③介護保険サービスの利用に伴う利用者負担の見通し

の3点が抽出されました。

令和8年度の活動においては、上記3点を活動指針として根拠性を明確に捉えながら具体化していき介護保険分野への移行が円滑に運営できる様な体制基盤の強化に努めていきたい。同時に介護保険サービス利用に伴う「利用者負担」についても定例会等を通して課題を明確にしていきたい。

#### 4. 部会構成機関

- ・原則、令和7年度の定例会参画の関係機関を構成機関とし召集する。尚、召集機関としては湖東圏域における下記の機関等とする。

※当事者家族、相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、1市4町障害福祉担当者  
介護支援専門員、介護保険サービス事業所、その他協力機関

※協力機関については、部会事務局会議にてその都度決定し、召集依頼を行う。

#### 5. 部会後方支援機関

- ・部会の円滑な活動運営、専門的視点の確保を目的に「基幹相談支援センター」を後方支援機関として位置付け活動の活性化を図る。

#### 6. 体制

部会長：相談支援事業所てんしん（廣田氏）

事務局：多賀町福祉保健課、相談支援センターあすなろ（石澤）

令和8年度 湖東地域障害者自立支援協議会 障害高齢者支援部会予算書

収入の部

(単位:円)

項目	金額	備考
補助金	70,000	・湖東地域障害者自立支援協議会補助金
計	70,000	

支出の部

(単位:円)

項目	金額	備考
報償費	30,000	・講師謝礼(5,000円 * 3 * 2回)
旅費	6,000	・講師旅費(3,000円 * 2回)
需用費	25,000	・印刷代、部会資料代、事務備品等
使用料および賃借料	0	
役務費	5,000	・アンケート等郵送代等
予備費	4,000	
計	70,000	

湖東地震障害者自立支援協議会 誰1人取り残さない防災支援プロジェクト  
令和7年度活動報告・令和8年度活動計画

## 1. 目的

湖東圏域において、これまでの防災支援プロジェクトの取り組みや、BCP訓練研修会、アンケート結果等を通じて明らかになった防災に関する課題（令和5年度PJまとめ図参照）について、引き続き取り組み・対応・評価を行う。また、災害時の対応を一部の支援者や行政のみの役割とするのではなく、本人・家族・地域・事業所・行政それぞれが担う「自助」「共助」「公助」の役割や防災への関わり方を整理・共有し、平時からの備えが災害時の行動につながる支援体制の構築を図る。

## 2. 令和7年度 活動報告

- BCP（業務継続計画）研修（机上シミュレーション訓練）の実施：令和7年11月にBCP（業務継続計画）の内容の充実と評価を目的として研修会実施。研修を振り返り、今後も継続した研修実施をプロジェクトとして確認。
- 避難計画モデル事業の実施：知的・発達障害のあるケースについて家族と面談を重ね、夜間に地震が起こった想定での避難までの流れ・行動の内容をプロセスごとに確認。自宅近くの避難場所の見学も実施した。次に避難訓練を実施する段階で、引越しをされることとなり、訓練は令和8年度以降に実施することとなった。

## 3. 令和8年度 活動計画

- 避難行動要支援者名簿への登録および個別避難計画作成について、引き続き啓発を行う。制度や手続きの周知にとどまらず、実際の作成過程や関係機関との連携の在り方についても共有し、取り組みを進めやすい環境づくりを図る。
- 避難計画から連携会議、訓練に至るまでの一連の流れについて、モデルケースを設定し、実践的に取り組む。モデルケースは、主たる関係者で構成したコア会議を中心に検討を進めており、現在は訓練の実施を残す段階となっている。当該ケースの進捗状況は参加委員間で共有しており、令和8年度においては、訓練の実施および振り返りを通じた検証を行い、その成果を今後の取り組みや横展開につなげていく。
- 湖東圏域において、災害時BCP訓練に関する研修会を継続して開催する。  
令和8年度開催予定：5月・11月  
5月は、災害対応の判断に直結する新たな気象情報等をテーマとした研修を行い、11月はBCP訓練を中心とした内容とするなど、年度を通じて学びと実践がにつながる研修構成とする。
- プロジェクト会議は、原則3か月に1回開催する。  
開催予定：4月、7月、10月、2月  
各回において、個別避難計画への取り組み状況やモデルケースの進捗、研修会を通じて得られた気づき等について共有・整理を行い、次の取り組みにつなげる場とする。

## 4. 課題

- 平時からの防災への備えについて、「自助」「共助」「公助」それぞれにおける役割や取り組みはあるものの、それらの情報が十分に連動しておらず、災害時にどのようにつながるのかが見えにくい状況がある。
- 避難行動要支援者名簿への登録および個別避難計画の作成が十分に進んでおらず、県・市町が保有する名簿情報の突合や共有についても、実務上の課題が多い。
- BCP訓練の実施を通じて、「訓練を行うこと」自体は一定程度進んできたものの、訓練の内容が災害時の実際の動きと合致しているのか、想定外の事態に対応できるのかといった点について、訓練後の振り返りや評価、見直しの整理が十分に行われにくい状況が明らかとなった。そのため、BCPが現場で“使える計画”として定着しているとは言えない。

## 5. 構成メンバー（部会員）：別紙参照

## 6. 体制

部会長：なし・副部会長：なし  
事務局：協議会事務局

## 令和 8 年度

### 人材確保・定着検討プロジェクト 令和 7 年度活動報告・令和 8 年度活動計画

#### 【1. 令和 7 年度の取組】

##### →①実習連携ネットワークに関する取り組みと協議

(取り組み) 圏域内事業所の資格取得実習・体験実習・ボランティア等の受け入れの意向確認を行い、全国各地の養成校等に情報提供実施。この流れは単年ではなく継続する方向とし数年後、フィードバックを実施。

併行して、圏域内の各事業所での実習に関する課題や工夫点・取り組みを圏域全体で共有し圏域全体で人材育成取り組めるようネットワークとして位置づけていく

##### ②ICT見本市の実施

令和 7 年 11 月 28 日実施。ICT 関連企業 30 社以上のブースの設置、ICT に関する研修会を同時開催を行う。

これら活動内容を踏まえ、今後の体制（プロジェクト継続／部会化等）や取組の方向性を都度整理・検討行った。

#### 【2. 令和 8 年度の基本方針】

- ・これまで検討・試行してきた取組を実際に運用しながら、実習情報ネットワークの運用・調整を継続する。
- ・既存取組を整理し、優先順位を明確にし、令和 9 年度以降の体制検討につなげる年度とする。

#### 【3. 令和 8 年度 主な活動計画】

##### ① 実習連携ネットワークの運用【継続】

- ・実習情報シートの収集・更新

→実習受入れ意向の年度単位の確認を継続していく。

- ・養成校・関係機関へ実習情報の発信・情報提供
- ・問い合わせ・調整対応

→本取組は、実習連携ネットワークを維持するための基盤的な取組として位置づける。

##### ② 実習実施後の振り返り・共有【検討】

- ・実施状況の整理・振り返り・共有の方法（全体会・定例会・意見交換会等）の検討

③ 既存取組の整理と優先順位付け【重点】

- ・若手職員の交流の場・機会について検討
- ・福祉教育（小学校への出前講座）への取り組み 等

④ ICT・DX 関連取組の位置づけ整理

- ・人材確保・定着との関係性を踏まえ、今後の取り組みを検討

**【4. 体制（案）】**

部会長（予定）：てんしん 廣田 佑一郎 氏

構成メンバー：現行プロジェクトメンバー

事務局：湖東地域障害者自立支援協議会 事務局

湖地障自発第1号  
令和8年5月14日

湖東圏域障害福祉事業所 各位

湖東地域障害者自立支援協議会  
会長 守時康裕

### 令和9年度実習受け入れに関する情報更新および情報提供のお願い

平素より、障害福祉人材の育成および実習受け入れにご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、湖東地域障害者自立支援協議会 人材確保・定着検討プロジェクトにおいては、これまで湖東圏域における実習受け入れ体制の在り方について検討を重ねてまいりました。令和7年度当初は「実習情報センター構想」として検討を進めておりましたが、その後の協議により、特定の拠点に機能を集約するのではなく、協議会事務局を核とした「湖東地域実習情報連携ネットワーク」として、圏域全体で実習を支える仕組みへと見直しております。本ネットワークでは、実習を単なる受け入れにとどめず、地域全体で人材を育てる仕組みとして、継続的な情報収集・共有・更新を行っていくことを重視しております。

つきましては、下記のとおり、実習受け入れに関する情報の更新および情報提供についてご協力をお願い申し上げます。

#### 【お願いしたい内容】

- ① 令和9年度に資格取得実習・体験実習・ボランティア・インターン等の受け入れを検討されている事業所様は、「実習受け入れに関する情報整理項目（新）」に必要事項をご記入のうえ、Excel 様式にてご提出ください。
- ② その他（ご意見・ご提案等）あればメール本文にご記載ください。

#### 【令和8年度に情報提供いただいた事業所様へ】

令和8年度に「実習情報シート」をご提出いただいた事業所様につきましては、現在登録している内容に変更・修正がある場合のみ、ご連絡をお願いいたします。  
（※変更がない場合、改めての提出不要です。情報提供不要の際はご連絡ください。）

#### 【今後の流れ（予定）】

いただいた内容をもとに、湖東地域実習情報連携ネットワークの情報を更新し、養成校・学生とのマッチングや情報提供に活用してまいります。

#### 【提出方法】

別添のExcel 様式にご入力のうえ、下記メールアドレスまでデータをご送付ください。  
（提出期限：令和8年6月19日）

お問い合わせ先  
湖東地域障害者自立支援協議会  
事務局（ステップアップ21内）大塚  
TEL：0749-35-0008  
FAX：0749-35-0021  
Mail：kotouzikyo@gmail.com